

[報告]

SGH DR3による多賀城高等学校との交流プログラム・第4回Zoom-Zoom会議

## 1 テーマ

「震災(Disaster)・復興(Reconstruction)・減災(Reduction)・レジリエンス(Resilience)の担い手となる」

## 2 目的

被災地域との学校交流を通して、大規模震災に対するリスクマネジメントについて多角的な視点から学ぶ。

- ① 身近な地域に起こった、あるいは今後起こるであろう地域災害について学ぶ。
- ② 人文科学・自然科学の両面から震災を捉え、地域の課題について考える。
- ③ どのような減災・防災教育を行えるか考える。
- ④ 上記活動を通して、他を思いやることのできる生徒を目指す。



北海道浦河高等学校が見学

## 3 Zoom-Zoom会議の内容 進行：多賀城高等学校

- 北海道浦河高等学校生徒会の自己紹介
- ① 各校研究活動の進捗状況報告と質疑応答
  - ・多賀城高等学校より報告
    - 復興住宅の現状と課題、クロスロード、減災カードゲーム
  - ・神戸大学附属中等教育学校のグループ別研究テーマの説明
    - A 地域コミュニティ、B 災害ボランティアとNPO、C 校内防災・減災学習プログラム
- ② 多賀城高等学校の神戸訪問について
  - ・来校メンバーの確認
  - ・交流プログラムについて
- ③ プレス対応
  - ・多賀城高等学校とNECにきている複数の新聞記者から取材を受ける。
  - ・Zoomモニター上で両校生徒の集合写真を撮影する。



両校、浦河、NEC、宮城教育大学

## 4 宮城教育大学・小針先生（Zoom会議システム推進の研究者）の講評

- ・今回のZoom会議は進行がスムーズで、過去3回に比べても深い議論となった。
- ・最後の記念撮影時が一番高校生らしい表情をしていた。従来のテレビ会議の形式にとらわれずに、高校生のリアルな対話・活動がZoom上で生き生きと行われることを期待したい。

## 5 見学で入室した北海道浦河高等学校・木村先生（Zoom会議による生徒交流を希望）の感想

- ・防災について中身の濃い話し合いであったため、本校生徒会役員は参加することが難しかった。次回にも参加して北海道における地震被害について伝えられる準備をしたい。
- ・防災以外にも生徒会活動での交流を3校で進めたい。

○ 次回Zoom会議予定 1月下旬 進行は本校